第4室　飯田蛇笏・飯田龍太記念室

【境川村小黒坂】

蛇笏・龍太使用の硯　億兆会贈呈。木製蓋付き。雨畑硯。
飯田家家相図　1899（明治32）年

【飯田蛇笏】

写真パネル　早稲田大学時代の蛇笏
「ホトトギス」第12巻第１号　1908（明治41）年10月「俳諧散心号」
「ホトトギス」第12巻第１号　1908（明治41）年10月「俳諧散心号」〈複刻〉
若山牧水　飯田蛇笏書簡　1910（明治43）年７月29日
「国民新聞」国民俳壇切り抜き
飯田蛇笏「いもの露連山影を正しうす」句額　1914（大正３）年〈複製〉原本　個人蔵
「ホトトギス」1914（大正３）年11月 「芋の露」巻頭号　＊後半期はパネル展示
「ホトトギス」雑詠欄投句稿（複製）原本　天理大学附属天理図書館蔵
「キララ」創刊号　1915（大正４）年５月〈複製〉原本　東京都近代文学博物館蔵
「キララ」第２号　1915（大正４）年６月〈複製〉原本　東京都近代文学博物館蔵
飯田蛇笏「魂のたとへばあきの蛍かな」幅　1927（昭和２）年〈複製〉額装
写真パネル 家族と庭前で　1917（大正６）年撮影
飯田蛇笏『山廬集』1932（昭和７）年12月　雲母社　川端龍子装幀
飯田蛇笏『山廬集』 序文原稿 〈複製〉
飯田蛇笏「山寺の扉に雲あそぶ彼岸哉」短冊　1916（大正５）年
飯田蛇笏「夏旅や温泉山出てきく日雷」短冊　1925（大正14）年
飯田蛇笏「山柿や五六顆おもき枝のさき」短冊　1927（昭和２）年
飯田蛇笏「冬晴れや杭の禽を射ておとす」短冊　1931（昭和６）年
「ホトトギス」1916（大正５）年４月　高浜虚子「進むべき俳句の道（飯田蛇笏)」掲載
『進むべき俳句の道』1918（大正７）年７月　実業之日本社
村上鬼城「花ちるや耳ふつて馬のおとなしき」色紙
渡辺水巴「秋風やつくゑの上の小人形」短冊
前田普羅「荒梅雨や山家の煙這ひまはる」短冊
原石鼎「満ちしほにすでに灯つらね川開」短冊
飯田蛇笏「行くほどにかげろふ深き山路哉」幅　1929（昭和４）年
飯田蛇笏「小野の鳶雲に上りて春をしむ」幅　1935（昭和10）年
飯田蛇笏「水あかりでゝ虫巌を落ちにけり」額装　1936（昭和11）年
飯田蛇笏「くろがねの秋の風鈴鳴りにけり」幅　1933（昭和８）年
飯田蛇笏「秋しばし寂日輪をこずゑ哉」幅　1935（昭和10）年
飯田蛇笏「寒たまごふところにして閑話哉」幅　1932（昭和７）年
飯田蛇笏「嶽腹を雲うつりゐる清水かな」幅　1938（昭和13）年
飯田蛇笏「山川のとゞろく梅を手折る哉」短冊　1945（昭和20）年
飯田蛇笏「山の春神々雲を白うしぬ」短冊　1934（昭和９）年
飯田蛇笏選句稿　1938（昭和13）年８月７日　雲母８月例会
飯田蛇笏「夏の哀感」句稿
飯田蛇笏「春ぬくゝ野の禽桑をのぼりけり」短冊　1946（昭和21）年
飯田蛇笏「谷橋に盆花わかつ童女見ゆ」短冊　1946（昭和21）年
飯田蛇笏「旧山河こだまをかへしはつ鼓」色紙　1947（昭和22）年
飯田蛇笏『磯土寂光』1936（昭和11）年12月　野田書房
飯田蛇笏『霊芝』1937（昭和12）年６月　改造社
飯田蛇笏『山響集』1940（昭和15）年10月　河出書房
飯田蛇笏『白嶽』1943（昭和18）年２月　起山房　装幀　蕗谷虹兒
飯田蛇笏『春蘭』1947（昭和22）年７月　改造社　装幀　木村荘八

飯田蛇笏『心像』1947（昭和22）年11月　靖文社
飯田蛇笏「心像」句稿　1943（昭和18）年部分〈複製〉
飯田蛇笏『俳句道を行く』目次原稿
飯田蛇笏『俳句道を行く』1933（昭和８）年11月　素人社書屋
写真パネル　飯田龍太撮影　炉辺の蛇笏　1956（昭和31）年１月撮影
「雲母」復刊号　1946（昭和21）年３月
飯田蛇笏『雪峡』1951（昭和26）年12月　創元社
飯田蛇笏「雲遠き塔に上りて春惜しむ」幅　1946（昭和21）年
飯田蛇笏「陽を擁くはアトサヌプリの梅雨の雲」短冊　1950（昭和25）年
飯田蛇笏『家郷の霧』1956（昭和31）年11月　角川書店
飯田蛇笏「おく霜を照る日静かに忘れけり」幅　1953（昭和28）年〈複製〉原本　個人蔵
写真パネル　1958年４月８日、門前を歩く蛇笏と龍太・小林冨司夫　撮影　若林賢明
飯田蛇笏「御魂祭折から月の上るなり」短冊　1961（昭和36）年〈複製〉原本　個人蔵
「雲母」1962（昭和37）年10月　蛇笏遺句「山月」掲載
「雲母」1962（昭和37）年11月　龍太「山廬永別」掲載
「雲母」飯田蛇笏特集号　1963（昭和38）年３・４月
飯田蛇笏『椿花集』1966（昭和41）年５月　角川書店
高浜虚子「山廬」扁額〈複製〉
遺品　万年筆・懐中時計・水滴・落款印・印譜
西島麥南「葉桜に風雨の蝶をみたりけり」短冊
石原舟月「春惜みつつ風交のしづかにも」短冊
宮武寒々「無明より無明へ漕げる?場かな」短冊
中川宋淵「梅の実の子と露の子と生れ合う」短冊
松村蒼石「桃の花いづくに靄の生れゐる」短冊
高室呉龍「蜂高く飛ぶ夕空に何もなし」短冊
高橋淡路女「白酒に酔ひしにやあらんたのしかり」短冊
柴田白葉女「陸奥の海くらく濤たち春祭」短冊

【飯田龍太】

写真パネル　甲府中学５年　1937（昭和12）年頃
写真パネル　百戸の谿口絵写真
飯田龍太「紺絣春月おもく出てしかな」色紙　1951（昭和26）年
飯田龍太「わが息のわが身に通ひ渡鳥」色紙　1951（昭和26）年
飯田龍太「大寒の一戸もかくれなき故郷」色紙　1954（昭和29）年
「農業世界」第41巻第３号　1946（昭和21）年３月
「雲母」1951（昭和26）年６月「紺絣」巻頭号
飯田龍太「雪の峰しづかに春ののぼりゆく」幅　1954（昭和29）年
飯田龍太「雪山のどこもうごかず花にほふ」幅　1960（昭和35）年
飯田龍太『百戸の谿』1954（昭和29）年８月　書林新甲鳥
飯田龍太『童眸』1959（昭和34）年３月　角川書店
飯田龍太『麓の人』1965（昭和40）年11月　雲母社　雲母叢書第29篇
飯田龍太『忘音』1968（昭和43）年11月　牧羊社「現代俳句十五人集」第１巻
飯田龍太「つばめ去る鶏鳴もまた糸のごと」幅　1964（昭和39）年
飯田龍太「山々のはればれねむり深雪かな」幅　1966（昭和41）年
飯田龍太「どの子にも涼しく風の吹く日かな」幅　1966（昭和41）年
飯田龍太「一月の川一月の谷の中」幅　1969（昭和44）年
飯田龍太「一月の川一月の谷の中」幅　1969（昭和44）年〈複製〉
「俳句」1969（昭和44）年２月号「明るい谷間」掲載
写真パネル　山廬裏手の竹林にて　昭和30年代後半　撮影　若林賢明
飯田龍太『春の道』1971（昭和46）年10月　牧羊社
飯田龍太旧蔵釣り竿・釣り道具

飯田龍太愛蔵釣り竿「わすれね」
吉岡堅二画・飯田龍太賛「かたつむり甲斐も信濃も雨のなか」額装
飯田龍太「黒猫の子のぞろぞろと月夜かな」色紙　1973（昭和48）年
飯田龍太「遠くまで諸葉のそよぐ夏景色」幅　1974（昭和49）年
飯田龍太「茸にほへばつつましき故郷あり」色紙　1974（昭和49）年
飯田龍太「冬の雲生後三日の仔牛立つ」色紙　1975（昭和50）年
飯田龍太「去るものは去りまた充ちて秋の空」幅　1978（昭和53）年
写真パネル　山廬庭前にて　斉藤勝久撮影　角川学芸出版提供
飯田龍太「現代俳句の百人」句稿「俳句」1974（昭和49）年12月掲載
「俳句」1974（昭和49）年12月　特集「現代俳句の百人」
飯田龍太「目覚めのあとに」句稿「俳句」1978（昭和53）年６月掲載
「俳句」1978（昭和53）年６月
飯田龍太『山の木』1975（昭和50）年4月30日　立風書房
飯田龍太『涼夜』1977（昭和52）年９月　五月書房和装本シリーズの１巻、限定400部
飯田龍太『今昔』1981（昭和56）年11月　立風書房　題簽　飯田龍太　篆刻　寺西健　装丁　前川直
飯田龍太『山の影』1985（昭和60）年７月　立風書房　題字　飯田龍太　装丁　前川直
飯田龍太使用の落款印　２点
飯田龍太印譜
飯田龍太「白雲のうしろはるけき小春かな」幅　1985（昭和60）年
飯田龍太「なにはともあれ山に雨山は春」扇面額　1987（昭和62）年
飯田龍太「千里より一里が遠き春の闇」色紙　1988（昭和63）年
飯田龍太「動かざる嶺あればこそ大暑かな」色紙　1988（昭和63）年
飯田龍太「天地戯遊」句稿
「俳句」1990（平成２）年７月
飯田龍太『遅速』1991（平成３）年12月　立風書房　装幀　菊地信義
飯田龍太「『雲母』の終刊について」原稿（写し）「雲母」1992（平成４）年７月掲載
「雲母」終刊号　1992（平成４）年８月
飯田龍太「あるがままを」原稿
飯田龍太「土俵のこと」原稿
飯田龍太「山起伏してみだれなき大暑かな」1983（昭和58）年
飯田龍太自句自解「なにはともあれ山に雨山は春」「滝音はひかりを含み春の雪」「遠くまで海揺れている大暑かな」「闇よりも山大いなる晩夏かな」「露ふかし不意にめでたき空の色」「鳥帰るこんにゃく村の夕空を」「走者一掃して冬の山冬の川」「白雲のうしろはるけき小春かな」
飯田龍太自選句稿　87句
飯田龍太『紺の記憶』1994（平成６）年７月　角川書店　装画　船越保武
飯田龍太『遠い日のこと』1997（平成９）年６月　角川書店　装画　萩原英雄
飯田龍太愛用カメラ　二眼レフ（ミノルタ）
写真パネル　小黒坂の風景（村の女性・狐川上流）撮影　飯田龍太
飯田龍太貼り交ぜ屏風〈複製〉

第5室　山梨出身・ゆかりの作家と作品

前期展示49名　4月27日（金）～9月9日（日）

【ジャーナリズム】

徳富蘇峰

徳富蘇峰『烟霞勝遊記』上・下　1924（大正13）年　民友社
徳富蘇峰　藤谷真淵宛書簡　1950（昭和25）年12月29日
藤谷みさを『蘇峰先生の人間像』1958（昭和33）年１月　明玄書房

池辺三山

池辺三山「新聞記者の地位」「山梨日日新聞」1888（明治21）年１月12日〈パネル〉

川合信水

「女学雑誌」第338号　1893（明治26）年２月
川合信水『吾が体験の道』1925（大正14）年９月　生々社

石橋湛山

石橋湛山　中村星湖宛書簡　1961（昭和36）年12月30日消印
『石橋湛山写真譜』1973（昭和48）年３月　東洋経済新報社

廣瀬千香

廣瀬千香「共古日録」メモ
『山中共古ノート』第１～３集　1973（昭和48）年６月～1975（昭和50）年６月
廣瀬千香『思ひ出雑多帖』1990（平成２）年７月　日本古書通信社
廣瀬千香「箸もつ筆もつたまさか針も」色紙

川合　仁

川合仁『私の知っている人達』1970（昭和45）年10月　藤書房
川合仁刊行会『回想・川合仁』1975（昭和50）年４月　川合澄男

望月百合子

望月百合子『大陸に生きる』1941（昭和16）年５月　大和書店
望月百合子『限りない自由を生きて』1988（昭和63）年３月　ドメス出版
矢崎千代二画「望月百合子肖像」

雨宮庸蔵

雨宮庸蔵『偲ぶ草』1988（昭和63）年11月　中央公論社
坪内逍遙「研精覃思（けんせいたんし）」色紙

竹中　労

竹中労『無頼と荊冠』1973（昭和48）年９月　三笠書房
竹中労ほか「夢よ少年懐古浅草の灯よチャンバラ時よ」色紙　1977年６月８日
竹中労『鞍馬天狗のおじさんは』1992（平成４）年８月　ちくま文庫
竹中労『ザ・ビートルズレポート』1982（昭和57）年６月　白夜叢書
竹中労『仮面を剥ぐ』1983（昭和58）年２月　幸津出版
竹中労『無頼の墓碑銘』1991（平成３）年８月　KKベストセラーズ

【小説・評論・随筆・翻訳ほか】

相田隆太郎

相田隆太郎『テクノクラシイ』1933（昭和８）年４月　新潮社
相田隆太郎『農民文学の諸問題』1949（昭和24）年４月　甲陽書房

和田芳恵

和田芳恵「灯」草稿
和田芳恵『接木の台』1974（昭和49）年９月　河出書房新社

山田多賀市

山田多賀市『耕土』1940（昭和15）年３月　大観堂書店
「農民文学」創刊号　1951（昭和26）年９月　農民文化協会

新田次郎

新田次郎『強力伝』1956（昭和31）年２月再版　朋文堂

新田次郎「富士と私」原稿
新田次郎「第二の古里　富士のもと生るも死ぬもこれ運命」色紙

石原文雄

「中部文学」創刊号　1940（昭和15）年４月
石原文雄『断崖の村』1946（昭和21）年７月　高須書房
のむら清六画　石原文雄肖像

藤巻宜城

「あぢさゐ」５月号　1922（大正11）年５月
「映象」第１輯　1925（大正14）年４月
「中央線」創刊号　1968（昭和43）年３月

中村鬼十郎

中村鬼十郎『傾斜地の村』1943（昭和18）年９月　アジア青年社
中村鬼十郎『慟哭の川』1976（昭和51）年10月　甲陽書房

熊王徳平

熊王徳平『いろは歌留多』1942（昭和17）年２月　第一芸文社
熊王徳平『無名作家の手記』1957（昭和32）年12月　講談社
熊王徳平『甲州商人』1958（昭和33）年９月　五月書房
熊王徳平「山の端を月上るなりきりぎりす」色紙

加賀美実

窪川鶴次郎　加賀美実宛書簡　年不明９月27日
加賀美実『昭和初年の青春』1967（昭和42）年６月　福岡書房
加賀美実『畦』1984（昭和59）年４月　文化総合出版

小林　実

「講談倶楽部」第11巻第12号　1959（昭和34）年12月
小林実『白い太陽』第一部・第二部　1961（昭和36）年３月　東京信友社

鳴山草平

鳴山草平「堕ちたる英雄」原稿
「新青年」第20巻第５号　1939（昭和14）年４月
「金ぴら先生とお嬢さん」台本　1953（昭和28）年　松竹

羽中田誠

野間仁根『酔いどれ記者』挿絵原画
羽中田誠『墓碑銘』1973（昭和48）年２月　東邦出版社

保坂義照

保坂義照『武田二十四将論』1944（昭和19）年２月　アジア青年社
保坂義照『愁風天目山』1952（昭和27）年９月　農村文化協会

小川正子

小川正子『小島の春』1939（昭和14）年４月改版　長崎書店

金子文子

金子文子『何が私をかうさせたか』1931（昭和６）年７月　春秋社
『金子文子歌集』1976（昭和51）年３月　黒色戦線社

大町桂月

大町桂月「ふもとより頂までも富士の根を背負ひてのぼる八ヶ嶽哉」他短歌軸装

野尻抱影

野尻抱影　小尾孝平宛葉書　1910（明治43）年５月19日〈複製〉
山口誓子・野尻抱影『星恋』1946（昭和21）年６月　鎌倉書房

平賀文男

平賀文男『日本南アルプス』1929（昭和４）年６月　博文館
「山と溪谷」第168号　1953（昭和28）年６月　山と溪谷社

寺田重雄

寺田重雄『甲州魚風土記』1980（昭和55）年12月　芸文社
「鵺　nue」終刊号（寺田重雄追悼号）1995（平成７）年

芦澤一洋

芦澤一洋『アーヴィングを読んだ日』1994（平成６）年11月　小沢書店
芦澤一洋『アウトドア・ものローグ』1985（昭和60）年８月　森林書房
芦澤一洋『山女魚里の釣り』1989（平成元）年２月　山と溪谷社
芦澤一洋『自然とつきあう五十章』1979（昭和54）年６月　森林書房
芦澤一洋『バックパッキング入門』1976（昭和51）年　山と溪谷社
芦澤一洋『フライフィッシング全書』1983（昭和58）年　森林書房

山中共古

山中共古『甲斐の落葉』1926（大正15）年11月　郷土研究社

土橋里木

南方熊楠　土橋里木宛葉書　1930（昭和５）年12月19日
土橋里木『山梨県の民話と伝説』1979（昭和54）年７月　有峰書店
土橋里木『山村夜譚』1993（平成５）年６月　近代文芸社

大森義憲

大森義憲『甲州年中行事』1952（昭和27）年11月　山梨民俗の会

中沢　厚

中沢厚『山梨県の道祖神』1973（昭和48）年５月　有峰書店
中沢厚『つぶて』1981（昭和56）年12月　法政大学出版局

浅川伯教

「白磁」創刊号　1922（大正11）年４月
浅川伯教『釜山窯と対州釜』1930（昭和５）年７月　彩壺会

浅川　巧

浅川巧『朝鮮の膳』1929（昭和４）年３月　工政会出版部

永峯秀樹

永峯秀樹『暴夜物語』第１編・第２編　1875（明治８）年２月、５月　山城屋

矢崎源九郎

矢崎源九郎訳『アンデルセン童話名作集』1955（昭和30）年３月　筑摩書房
矢崎源九郎『これからの日本語』1960（昭和35）年２月　三笠書房

【童話・童謡】

大村主計

大村主計『ばあやのお里』1932（昭和７）年１月　児童芸術社
「楽しい童謡集」レコード盤　1959（昭和34）年　コロムビアレコード
大村主計筆「花かげ」書画

米山愛紫

「チチノキ」第18冊　1935（昭和10）年３月
米山愛紫『春の停車場』1942（昭和17）年６月　文昭社
『米山愛紫歌謡集』1975（昭和50）年７月　甲府ライオンズクラブ

小野政方

小野政方『りんごののぞみ』1928（昭和３）年10月　研究社
小野政方『愛児読本』ひらかなの巻　1934（昭和９）年10月　厚生閣

太田黒克彦

太田黒克彦「マスの旅」原稿
太田黒克彦『山ばとクル』1962（昭和37）年５月　講談社

山北しげり

山北しげり『小人の踊り』1936（昭和11）年11月　宏文堂書店
「シャボン玉」1937（昭和12）年２月

塩沢　清

塩沢清『ガキ大将行進曲』1977（昭和52）年４月　旺文社
塩沢清『五年五組の秀才くん』1982（昭和57）年４月　ポプラ社

【戯曲・脚本】

小林一三

小林一三『歌劇十曲』1917（大正６）年10月　玄文社
小林一三『曾根崎艶話』1948（昭和23）年10月　芙蓉書房

河野義博

中村吉蔵・河野義博『近代演劇史論』1921（大正10）年12月　日本評論社
「演劇」創刊号　1932（昭和７）年４月

大木直太郎

「月水金」１月号　1938（昭和13）年１月
大木直太郎『大木直太郎戯曲選集』1998（平成10）年５月　陽光台OAプラザ

菊島隆三

菊島隆三・黒澤明共同脚本「用心棒」台本（第２稿）
菊島隆三・黒澤明・小国英雄共同脚本「椿三十郎」台本（決定稿）
菊島隆三他共同脚本「トラ・トラ・トラ！」台本（決定稿）

小柳津浩

小柳津浩『学校演劇論』1953（昭和28）年11月　甲陽書房
小柳津浩『青年演劇脚本集』1958（昭和33）年７月　甲陽書房
『小柳津浩脚本集　二発の銃声』1986（昭和61）年９月　山梨舞台芸術センター

竹内勇太郎

竹内勇太郎脚本「濁流」台本
山本有三作・竹内勇太郎脚本「真実一路」台本（第２稿）
竹内勇太郎作・演出「樋口一葉考」チラシ　1983年10月　水道橋労音会館ホール
竹内勇太郎『山本勘介』第１巻　1985（昭和60）年８月　学習研究社

後期展示55名　10月6日（土）～3月17日（日）

【詩】20名

青柳瑞穂

青柳瑞穂『睡眠』1931（昭和６）年１月　第一書房
青柳瑞穂「七つの壺」原稿

尾崎喜八

尾崎喜八『旅と滞在』1959（昭和34）年５月　創文社
尾崎喜八「遠い日の山小屋」原稿〈複製〉

金子光晴

金子光晴「牡丹」原稿
金子光晴「僕はゆく湖のながい汀にそうてはてしもしらずつゞく蛾の屍の柔らかと踏をふんで」色紙
金子光晴『こがね蟲』1923（大正12）年12月　新潮社

杉原邦太郎

杉原邦太郎『火山』1930（昭和５）年２月　機山閣書店
杉原邦太郎「昨日は靡く翠であった　今日は暮春の菫であった　きのふもけふも素直であった　平和な土鳩の眠りのように」色紙

内田義廣

内田義廣「街」原稿
内田義廣『花の群落』1976（昭和51）年４月　日本未来派の会

上野頼三郎

上野頼三郎『村の生活』1930（昭和５）年10月　村落社
「山脈」創刊号　1930（昭和５）年８月
上野頼三郎「犬のやうに」原稿

山口啓一

山口啓一『石炭と花』1930（昭和５）年５月　機山閣書店

中室員重

中室員重『兵隊詩集』1931（昭和６）年８月　海図社

米澤順子

米澤順子「或日ひとに」詩稿
米澤順子『聖水盤』1919（大正８）年11月　東京堂
『米澤順子詩集』1932（昭和７）年６月　第一書房

米倉寿仁

米倉寿仁『透明ナ歳月』1937（昭和12）年４月　西東書林

宮田栂夫

「甲府派」創刊号　1954（昭和29）年11月
宮田栂夫『仮面』1954（昭和29）年10月　甲府派発行所
宮田栂夫「軽いボンネの裏側からやさしい声々が降るのです額にかげる謎らのためにかがやきみちた」色紙

曾根崎保太郎

「未踏」創刊号　1950（昭和25）年３月
曾根崎保太郎「ミューズの乳を祝福しバッカスの歌を讃えて葡萄を選ぶ」色紙
曾根崎保太郎『灰色の体質』1954（昭和29）年11月　甲府派発行所

野澤　一

野澤一「四十一歳三月三日夜作」未定稿
野澤一『木葉童子詩経』1976（昭和51）年11月　文治堂書店

津嘉山一穂

津嘉山一穂「未刊詩集」草稿
「リアン」創刊号　1929（昭和４）年３月

鈴木久夫

鈴木久夫「断崖」原稿
鈴木久夫『断崖』1930（昭和５）年11月　民謡レビュー社

鈴木祐之

鈴木祐之「心の頂きに」原稿
鈴木祐之『わたしのヒロシマ』1969（昭和44）年３月　甲陽書房

小林冨司夫

「詩人群」第１集　1948（昭和23）年３月
小林冨司夫「地は落葉線路の枕木を一本一本渡ってゆくと満月がいたぼくは冬の満月をすぎた」色紙

土橋治重

土橋治重　詩集『花』1953（昭和28）年１月　日本未来派発行所
「風」129（終刊）号　土橋治重追悼号　1993（平成５）年12月
土橋治重「甲州は颯爽と山々が肌を脱いでいた夜は深々と星がかがやいた」色紙

中込純次

中込純次「詩集母と恋人」原稿
中込純次『母と恋人』1929（昭和４）年１月　国風閣

一瀬　稔

一瀬稔筆　のむら清六画　掛軸
一瀬稔　詩集『山鶏』1940（昭和15）年10月　中部文学社

【短歌】15名

伊藤生更

伊藤生更「みんなみの空に一つの雲ありてしづかに富士の峰に近づく」幅
「美知思波」第１巻第３号　1935（昭和10）年５月
伊藤生更『柴山』1951（昭和26）年　美知思波発行所

中村美穂

「みづがき」第３巻第１号　1930（昭和５）年１月
中村美穂『佛顔』1931（昭和６）年９月　みづがき社

相澤貫一

相澤貫一『石水集』1971（昭和46）年６月　発行人　古谷幸江

若尾隣平

若尾隣平　歌帖「顕覆帖」
『若尾隣平遺稿集』1971（昭和46）年１月　発行人　若尾朗

中大路佳郷

中大路佳郷　歌稿「ふみづき集」

「須曾乃」第３巻第７号　1941（昭和16）年７月
中大路佳郷『華葩』1987（昭和62）年２月　須曾乃短歌会

伊藤映二

井伏鱒二・伊藤映二　寄せ書き短冊
伊藤映二「書と酒の強ひて今宵の主人公」短冊
伊藤映二『揺籃時代』1926（昭和２）年10月　上田書店

飯野真澄

飯野真澄「広き田の南寄りに黒牛は立ちて居るなり代掻を止めて」色紙
『飯野真澄歌集』1971（昭和46）年８月　白玉書房

青木辰雄

青木辰雄「六階の食堂にゐてややややに茜うするる時を過ごしぬ」短冊
『青木辰雄歌集』1988（昭和63）年８月　発行　青木文子
「山梨歌人」創刊号　1946（昭和21）年８月

相澤　正

『相澤正歌集』1954（昭和29）年１月　白玉書房

許山茂隆

許山茂隆「髭しろきおきな誰そと眼凝らすにかゝみの面にうつるわか影」色紙
許山茂隆『帰園』1947（昭和22）年７月　国民文学社

鈴木　孝

鈴木孝「みどり子と添寝する見ればをさな妻君いつしかに母親の位」短冊
「樹海」創刊号　1954（昭和29）年７月
鈴木孝『丘のある街』1966（昭和42）年10月　甲陽書房

渋谷　俊

渋谷俊「新らしき家居建ると地の神にまづこそ祈れ永久の栄えを」色紙
渋谷俊『華鬘』1939（昭和14）年４月　柳正堂書店
与謝野晶子「序に代へて」歌稿（渋谷俊『華鬘』所収）

渋谷玻瑠子

渋谷玻瑠子『無礙の光』1929（昭和４）年12月　柳正堂書店

茂手木みさを

茂手木みさを『一隅の薔薇』1930（昭和5）年３月　朝日書房

佐野四郎

佐野四郎「日のゆふへ行きて耕さむおもひわくすくひの如き富士みゆる丘」幅
佐野四郎『杉の花粉』1934（昭和9）年７月　朝日書房
「コスモス」432号　1988（昭和63）年12月

【俳句】13名

今村霞外

山廬（飯田蛇笏）「『法燈』序」原稿
今村霞外『法燈』1954（昭和29）年８月　私家版
今村霞外「初汐にのりて美しすて扇」短冊

五味洒蝶

五味洒蝶「梅しろし人を信じて疑はず」短冊
五味洒蝶『洒蝶句集』1964（昭和39）年９月　雲母社

辻　蕗村

辻蕗村「山に来て何を踏みても春隣り」短冊
「青栗」創刊号　1951（昭和26）年９月
辻蕗村『樹影』1973（昭和48）年７月　雲母社

榎本虎山

榎本虎山「蛇笏忌や身ほとり露と雲の輝り」短冊
榎本虎山『餘花』1972（昭和47）年１月　雲母社

角田雪弥

角田雪弥「竹の葉によすがのひかり冬の水」短冊
角田雪弥『畦火』1987（昭和62）年７月　竹頭書房

山田岫雲

山田岫雲「山駅の夜半の人数や富士道者」短冊
山田岫雲『朴の花』1975（昭和50）年11月　発行　山田武雄

柏木白雨

柏木白雨「夕富士のほの紫や花の上」短冊
柏木白雨『白雨句集』1977（昭和52）年７月　若葉社

鈴木青処

鈴木青処「祖母のゐて紅梅莟む子の娶り」短冊
山口青邨選「稿本青処句集」

堤俳一佳

堤俳一佳「虚子庵の梅見頃なる年賀哉」短冊
堤俳一佳『俳一佳句集』1951（昭和26）年４月　裸子発行所
「裸子」創刊号1949（昭和24）年10月

加賀美子麓

加賀美子麓「夕星のあとの夜星や葡萄熟る」一枚物
加賀美子麓『火度』1987（昭和62）年８月　牧羊社
「麓」創刊号　1990（平成２）年３月

赤堀五百里

赤堀五百里「淵明も李白も来よや屠蘇酌まむ」短冊
赤堀五百里『萬里』1995（平成７）年５月　読売・日本テレビ文化センター

石原八束

石原八束「原爆地子がかげろふに消えゆけり」短冊
石原八束『秋風琴』1955（昭和30）年８月　書肆ユリイカ
「秋」創刊号　1961（昭和36）年10月

新免一五坊

「菊十句集」子規選作品集　1899（明治32）年11月
正岡子規「燈籠にふたたびともす夜半哉」扇面色紙

【川柳】４名

篠原春雨

篠原春雨書「こからしやあとて芽をふけ川柳　初代川柳辞世句」色紙
『篠原春雨句集』1929（昭和４）年８月　春雨句集刊行会

中沢春雨

中沢春雨「音かすかランプにいのちある如く」色紙
『騒愁　中沢春雨川柳句集』1967（昭和42）年11月　甲陽書房

雨宮八重夫

雨宮八重夫「一本の道あり明日へひた行かな」色紙
雨宮八重夫『遍路美知』1977（昭和52）年９月　サンケイ新聞社

田中浮世亭

田中浮世亭「浮世亭句抄」

【漢詩】３名

香川香南

香川香南『香南詩鈔』1926（大正15）年11月
香川香南『香南晩稿』1934（昭和９）年12月

笠井南村

笠井南邨七言絶句「還郷有感」色紙　複製
『笠井南村詩鈔』1996（平成８）年９月　漢詩人社
『翰墨縁』詩稿・印譜

村松蘆洲

村松蘆洲「送兒定孝之瑞西」色紙
村松蘆洲『蘆洲詩集』1980（昭和55）年５月　発行人　村松定孝